

## 論 文 内 容 要 旨

Development of a nursing practice scale for  
rheumatoid arthritis treatment with biological  
disease-modifying anti-rheumatic drugs

(生物学的抗リウマチ薬で治療する関節リウマチ患  
者への看護実践尺度の開発)

Modern Rheumatology, 00, 1-9, 2023.

主指導教員：中谷 久恵教授

(医系科学研究科 地域保健看護開発学)

副指導教員：平田 信太郎教授

(広島大学病院 リウマチ・膠原病科)

副指導教員：花岡 秀明教授

(医系科学研究科 老年・地域作業機能制御科学)

宋 芳

(医系科学研究科 総合健康科学専攻)

## 【緒言】

関節リウマチ (Rheumatoid Arthritis: 以下、RA) は、関節痛、機能制限、関節の変形を伴う疾患である。RA の病因に対するアプローチはまだ十分ではなく、治療を遅延すれば不可逆的な障害を生じ、生活の質と日常生活動作の著しい低下を引き起こす。日本では、人口の 0.65%、男女比は 1 : 3.21 と報告されている。2003 年に導入された生物学的抗リウマチ薬 (Biological disease-modifying anti-rheumatic drugs : 以下、bDMARDs) は、従来の合成疾患修飾性抗リウマチ薬よりも一般的に効果的であるため、治療目標は臨床的寛解に変わり、RA の治療を大きく進歩させた。一方、持続的寛解を維持できても、多くの患者が生涯にわたる治療を続けることになるため、日常生活を過ごしながらかつて継続するには医療費の経済的な不安や負担を伴い、寛解までに患者が体験する困難は少なくない。

日本リウマチ財団はリウマチ財団登録医 (1986 年)、リウマチケア看護師 (The Certified Nurse by Japan Rheumatism Foundation : 以下、CNJRF) (2010 年)、登録薬剤師 (2014 年)、登録理学・作業療法士 (2019 年) の専門職を発足させた。しかし、CNJRF 資格の申請条件と資格の維持には地理的、時間的に困難な課題があるため、多くの RA 患者が CNJRF による看護を受けられていない現状である。本研究では、bDMARDs で治療する RA 患者をケアする看護師の看護実践能力を自己評価するための尺度を開発することを目的とし、尺度の信頼性・妥当性を検証した。

## 【方法】

対象者は日本の病院で RA 患者の看護を実践している看護師である。日本リウマチ財団の CNJRFs 1268 人から層化無作為抽出した 960 人と、リウマチ科を標榜する全国の 2669 病院から 120 病院を層化無作為抽出し、調査を依頼し同意した 37 病院の一般看護師 (Registered Nurse : 以下、RN) 866 人の計 1826 人へ無記名自記式任意のアンケート調査を行った。CNJRFs への調査は 2020 年 10 月～12 月に実施し、RNs へは 2021 年 12 月～2022 年 3 月に実施した。

調査内容は、対象者の基本属性 (年齢、看護師経験年数、職位、RA 患者の看護経験、CNJRF 資格の有無)、同施設内で日本リウマチ財団の登録専門職の有無、bDMARDs の知識、自作した bDMARDs で治療する RA 患者への看護実践尺度の原案および基準関連妥当性として用いたリウマチ看護師の看護実践能力尺度 (神崎ら、2018) であった。原案は bDMARDs の患者の既存研究の文献レビューから明らかにした看護の役割をもとに、bDMARDs に関する看護実践項目をアイテムプールとした。

分析方法は、看護実践尺度原案の 19 項目の天井効果とフロア効果、I-T 相関および項目間相関を確認し、探索的因子分析および基準関連妥当性と既知グループ技法により、尺度の信頼性と妥当性を検討した。有意水準は両側検定で 0.05 とした。解析には SPSS ver27 を用いた。本研究は、広島大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した (許可番号 E-2211、E-2655)。

## 【結果】

CNJRFs から 466 人 (有効回収 407 人 : 42.7%)、RNs から 402 人 (有効回収 291 人 : 33.6%) の回答があり、看護実践尺度の欠損値がない 698 人を分析した (有効回答率 38.4%)。平均年齢は  $44.0 \pm 10.1$  歳で、看護経験の平均年数は  $20.3 \pm 9.8$  年であった。看護実践尺度は、計 9 項目 (質問 4、6、7、8、9、10、11、12、13) に天井効果の偏りがみられたが、bDMARDs の自己注射に関する項目が多く、いずれの質問項目についても看護役割を測定する上で不可欠なものであると考え、すべての項目を分析に含めた。I-T 相関は項目と尺度全体において、539 以上と有意な相関がみられた ( $p < .01$ )。各項目相関は、.2 以下の項目はなかった ( $p < .01$ )。

探索的因子分析により、十分な因子負荷量を示さなかった 1 項目 (質問 15) を除外し、看護実践尺度は【患者がセルフケア能力を向上する看護】【患者が意思決定に参加する看護】【チーム医療を推進する看護】の 3 因子 18 項目が抽出された。全体の Cronbach's  $\alpha$  係数は 0.95 で、各因子は 0.96、0.91、0.84 であった。

基準関連妥当性はリウマチ看護師の看護実践能力尺度との相関を検討し、本尺度との相関は  $r = .736$  ( $p < .01$ ) で、下位尺度間の相関は  $r = .170 \sim .698$  ( $p < .01$ ) であった。構成概念妥当性は既知グループ間の CNJRFs 群と RNs 群の 2 群比較で検討し、本尺度の合計得点 ( $p < .01$ ) と【患者がセルフケア能力を向上する看護】 ( $p < .001$ )、【患者が意思決定に参加する看護】 ( $p < .05$ ) において専門資格を有する CNJRFs 群が高値を示し、【チーム医療を推進する看護】 ( $p < .001$ ) において、専門資格を有しない RNs 群が高値を示し、2 群間には差が認められた。

#### 【考察】

本尺度の信頼性係数は 0.08 以上であり、リウマチ看護師の看護実践能力尺度の合計得点で強い相関を認めた。既知グループ間で検討した結果は、専門資格の有無により看護実践に差異をもたらすことが示唆された。以上のことから、本尺度は、信頼性、基準関連妥当性、構成概念妥当性を備えた尺度であることが検証された。この尺度を用いることで看護実践を客観的に把握することができ、bDMARDs で治療を受ける患者への適切な看護への活用が期待できると考える。